

卒業論文要旨

エージェントモデルに基づくいじめの同調行動シミュレーション

Simulating co-forming behavior in bullying using agent model

1240252 根来優貴

Yuki Negoro

本研究では、いじめにおける同調行動の特徴を明らかにすることを目的とし、シンプルな数理モデルによるシミュレーションを用いて、いじめの同調行動に対する環境や条件の依存性を調べた。

いじめの要因として、学校社会という集団の構造が挙げられる。そこで、複数のエージェントの相互作用を調べる工学的手法の1つであるマルチエージェントシミュレーションを用いて、コミュニケーションによって変化するエージェント間の好感度とエージェント自身のストレスに焦点を当てたモデルを構築し、いじめの同調行動の解析を行った。先行研究の「世間」という日本独自の共同体意識の特徴を持つ日本型モデルを基に、新たにヨーロッパ諸国で見られる個人主義の特徴を持つフランス型モデルを構築した。この2種類のモデルに、さらに周囲の影響あり・なしと、エージェントの行動分岐がランダム・状況維持・状況打破の条件を加えて、12個の条件を設定した。

シミュレーションの結果、日本型モデルではいじめが発生しやすいことが分かった。さらに、周囲の影響がある条件では、いじめの深刻化または、発見の難しいいじめの存在が示唆される。フランス型では特殊な条件下でのみいじめが発生することが分かった。

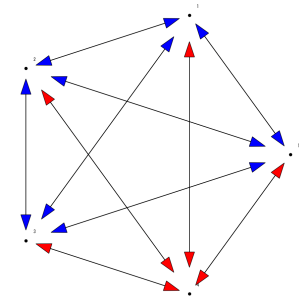


図 1: エージェント 5 人における人間関係（青: 好意的、赤: 敵対的）の例。

文献

1) 塚田勇人, *artisoc* モデル集 -MAS コミュニティ- 構造計画研究所, <https://mas.kke.co.jp/artisocmodel/>